

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

7月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 7月の報告数は4件（前月比0.3、前年同月比1.0）でした。例年と同様の水準です。

小児科定点

（全体傾向）

7月の報告数は4,295件（前月比0.94、前年同月比1.28）でした。前月と横ばいですが、前年よりは高めの水準です。前月に比べてRSウイルス感染症が大幅増加、伝染性紅斑とヘルパンギーナが増えました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数は127件（前月比18.1、前年同月比1.2）でした。過去2シーズンも7月から患者数が増加しており、今年も同様の傾向を示しています。今後8月、9月と患者数が増加することが予想されます。宇城（8.25）、八代（6.25）、菊池（5.20）からの報告が多くなっています。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数は105件（前月比1.0、前年同月比2.2）でした。過去2シーズンは7月に一旦患者数が減っていましたが、今年は減少がなく、6月とほぼ同数の報告がありました。年齢別では生後6ヶ月から2歳で全体の7割（73/105）を占めました。宇城（5.00）から多く報告されました。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数は302件（前月比0.7、前年同月比1.3）で、前月より減少しました。3~7歳で全体の6割強（191/302）を占めました。菊池（12.20）、宇城（9.75）、有明（9.00）で多くなっています。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数は973件（前月比0.8、前年同月比0.8）で、4月をピークに減少が続いています。1歳をピークに、全ての年齢層で患者が発生しています。菊池（40.80）、有明（35.60）から多数報告がありました。
5. 水痘 : 報告数は37件（前月比0.8、前年同月比1.4）で、前月より減少しましたが、前年より増えています。年齢別では5歳が最多で、5~9歳で全体の3分の2（24/37）を占めました。山鹿（2.00）から多く報告されました。
6. 手足口病 : 報告数は1,560件（前月比0.9、前年同月比1.5）で、患者数は前年よりは多いものの、前月と比べると減少しています。今年は流行のピークが例年よりも1ヶ月早かったようです。年齢別では1歳をピークに、生後6ヶ月~2歳で全体の7割強（1,136/1,560）を占めました。菊池（56.20）、水俣（50.50）から多く報告されました。
7. 伝染性紅斑 : 報告数は116件（前月比1.4、前年同月比16.6）でした。前月一旦減少したものの、7月は再び増加に転じました。7月の報告数はこの3シーズンで最多です。年齢別では5歳をピークに、2~6歳で全体の4分の3（88/116）を占めました。有明（7.60）、水俣（5.00）から多く報告されました。
8. 突発性発疹 : 報告数は136件（前月比1.0、前年同月比0.9）で、前月と大きな変動ありません。菊池（5.40）から多く報告されました。
9. ヘルパンギーナ : 報告数は658件（前月比1.2、前年同月比2.4）で、前月よりやや増加しました。今月または8月がピークと考えられます。1歳が最多で、1~2歳で全体の半数（347/658）を占めました。菊池（27.20）、八代（26.00）、天草（23.25）から多く報告されました。

10. 流行性耳下腺炎 : 報告数は46件(前月比0.9、前年同月比2.0)で、前月とほぼ同数ですが、前年よりも多くなっています。年齢別では7歳が最多です。宇城(7.00)、有明(2.40)から多く報告されました。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 75 件(前月比 1.1、前年同月 1.0)と前月より増加しています。時期がら、今後注意が必要です。熊本 56 件、菊池 5 件、有明 12 件、天草 2 件の報告です。年齢別では 20~39 歳にピークがありますが、ほぼ全年齢層に発症しています。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数60件(前月比1.4、前年同月比1.3)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に32件とやや多く見られています。年齢別は、男性は20~24歳に8件と多く、女性も20~24歳に10件と多く見られています。地区別は、熊本が35件と多く、次いで有明10件、御船8件、菊池3件、八代、宇城に各2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数20件(前月比0.9、前年同月比0.6)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、男性、女性同数でした。年齢別は、男性は20~70歳以上と幅広く見られ、女性も15~70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が9件と多く、次いで菊池、八代、宇城に各3件、御船、有明に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数は8件(前月比0.7、前年同月比0.6)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、男性に6件と多く見られています。年齢別は、男性は20~24歳に2件、40~44歳に3件、55~59歳に1件見られています。女性は20~29歳に見られています。地区別は、熊本に7件と圧倒的に多く、次いで有明に1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数は29件(前月比1.7、前年同月比2.1)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別では、男性に25件と圧倒的に多く見られました。年齢別は、男性は20~24歳に7件と多く見られ、女性は20~24歳に1件、25~29歳に2件、35~39歳に1件見られています。地区別は、熊本23件と圧倒的に多く、次いで有明3件、菊池、御船、宇城に各1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数20件(前月比 1.4、前年同月比1.1)でした。15件(75%)が70歳以上でした。乳幼児では0-9歳で0件です。熊本(13件、定点あたり2.6)、人吉(4件、定点あたり4.0)、が多くなっています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :
報告数4件(前月比 2.0、前年同月比 0.5)でした。比較的少ない発生状況です。70歳以上が3件で、小児は5-9歳で1件です。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数0件（前月比 +0、前年同月比 +0）でした。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告数1件（前月比 1.0、前年同月比 -1）でした。小児は0-9歳で0件です。70歳以上1件です。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数8件（前月比 8.0、前年同月比 4.0）でした。小児は0歳1件、5-9歳で1件です。45-69歳で5件、70歳以上1件です。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数4件（前月比 2.0、前年同月比 0.5）でした。小児は0歳1件、1-4歳1件、5-9歳で1件です。70歳以上1件です。水俣（2件、定点あたり2.0）が多くなっています。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月比 +0、前年同月比 +0）でした。ここ3年報告がありません。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数2件（前月比 0.2、前年同月比 2.0）でした。4月が流行のピークで83件の報告がありましたが、非流行期に移行したようです。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	23件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	8件
4類感染症	： デング熱	1件
	日本紅斑熱	2件
	レジオネラ症	4件
5類感染症	： カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2件
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
	梅毒	12件
	百日咳	73件
	風しん	1件